

書物との出会い、読書という行為について考える

教授 泉 順 子

1. 研究内容

私達のところや体の問題を改善・解決するために図書を「処方」する試みが行われています。病院、刑務所、戦場というつらく過酷な環境であっても、公園やカフェのようなくつろいだ場所であっても、本は古くからひとの心を癒し、勇気づけ、和ませ、そして読者に新たな気づきや叡智を与えてきました。このような図書の力は、今では科学的にも証明されています。文学作品を読むことで、他者のところを理解する能力が高められることも指摘されています。

とはいえ本と人間の関係は一方的なものでもありません。1冊の本が書物として成立するためには、読者の存在が不可欠であり、読者の感性や反応が書物に力を加え、作品の奥行を二重にも三重にも深めていくのです。

本演習室では、読書の機能とその効用について複合学際的に検討していきます。歴史資料、脳科学の先行研究、文学理論、絵画作品、そして文学作品に触れながら、読書と本の潜在的な力を多角的に考察していきます。

2. ゼミの進め方

《2年次》

個別テーマの研究に先立って、基本的な全体学習を行います。年間を通じてグループ作業や個人発表もあります。秋学期は『商学総合学際セミナー』に掲載する論文を作成します。展覧会や食事会、図書館（国内）めぐりなどのイベントを通じて親睦を深めていきます。

《3年次》

春学期は前年度に引き続き、個別テーマの研究に先立って基本的な全体学習を行います。秋学期では具体的なテーマを設定し、個人研究またはグループ研究を行います。展覧会や食事会、図書館（国内）めぐりなどのイベントを通じて親睦を深めていきます。

《4年次》

卒業論文を執筆します。教員による個別の論文指導を受けながら研究論文を完成させます。

3. 教材

テキスト（主に図書）は指定されたものを用意してください。補足資料は適宜配布します。参考文献も必要に応じて紹介します。

4. 成績評価の方法

課題への取組み姿勢、成果発表、論文執筆およびゼミ共同研究活動への参加状況から総合的に判断します。

5. ゼミ入室試験（選考方法）

選考方法につきましては、Oh-o!Meijiにて、後日連絡します。

6. その他・志願者へのメッセージなど

この演習室では、アカデミックに研究することが求められます。資料（日本語・英語）を読解し、問題について考え、発言し、書く作業は欠かせません。本演習室の研究テーマについて前向きに取り組める学生の来室を希望します。

交換留学生を受け入れることもあります。ゼミ生の人数によっては授業の方法と進行に変更が生じる可能性もあります。